

資料1

令和5年2月7日第13回(令和4年度 第1回) 編さん委員会資料

港区教育史編さん委員会 委員名簿

(令和4年4月1日現在)

	氏 名	所 属 ・ 役 職 等
学識経験者	こくに よしひろ 小国 喜弘	東京大学 大学院教育学研究科教授
学識経験者	あさい さちこ 浅井 幸子	東京大学 大学院教育学研究科教授
区関係団体推薦	いでの やすまさ 出野 泰正	港区中学校PTA連合会 元会長
区関係団体推薦	こんの ゆりこ 今野 由理子	港区スポーツ推進委員協議会 前会長
区関係団体推薦	ほしの ともひと 星野 智仁	港区青少年委員
区職員	うらた みきお 浦田 幹男	港区教育長
区職員	ほしかわ くにあき 星川 邦昭	教育委員会事務局 教育推進部長
区職員	かみむら たかし 上村 隆	教育委員会事務局 学校教育部長
校長	けんもつ としゆき 鋸持 利行	高松中学校 校長
校長	みやざき なおと 宮崎 直人	芝浜小学校 校長
園長	かきぬま あつこ 柿沼 敦子	高輪幼稚園 園長

『港区教育史』くらしと教育編の刊行について

1 概要

平成28年度から編さんを進めてきた『港区教育史』(全11巻)の最終巻「くらしと教育編」を刊行します。

巻	タイトル	頁数	
第1巻	港区の風土と教育のあゆみ	268頁	既刊 (令和4年3月1日刊行)
第2巻	明治期の教育 上	440頁	
第3巻	明治期の教育 下	396頁	
第4巻	大正期の教育	292頁	
第5巻	昭和期の教育 上	504頁	
第6巻	昭和期の教育 中	472頁	
第7巻	昭和期の教育 下	456頁	
第8巻	平成期の教育 上	460頁	
第9巻	平成期の教育 下	428頁	
第10巻	資料編	472頁	
第11巻	くらしと教育編	352頁	

2 刊行予定日

令和5年3月1日(水)

3 刊行部数(令和3年度第1回港区教育史編さん委員会決定)

380部(配布・献本357部、販売・予備23部)

4 販売価格(令和3年度第1回港区教育史編さん委員会決定)

各巻3,500円

5 販売場所

区政資料室(港区役所3階)、麻布地区総合支所、赤坂地区総合支所、高輪地区総合支所、芝浦港南地区総合支所、港区立郷土歴史館

6 周知方法

教育委員会「ひろば」1月号、広報みなと2月21日号、区ホームページ、区SNS(Twitter、LINE、Facebook)、デジタルサイネージ、区施設チラシ設置

7 インターネットでの公開

「くらしと教育編」をデジタル化し、Webサイト「デジタル港区教育史」で公開します。

デジタル港区教育史

DIGITAL EDUCATION HISTORY OF MINATO CITY

港区の教育の歴史を今と未来に伝えるデジタルアーカイブ

インターネットで
港区教育史と
関連資料を
閲覧できます！
だれでも、どこにいても

通史編
くらしと
教育編



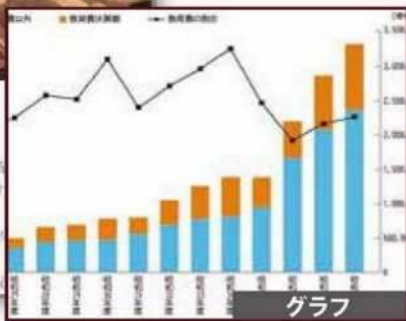
通史編・くらしと教育編では、新しい『港区教育史』をキーワード検索が可能な〈テキスト形式〉と、刊本の版面がそのまま閲覧できる〈刊本形式〉の2つの形式で公開しています。



資料編



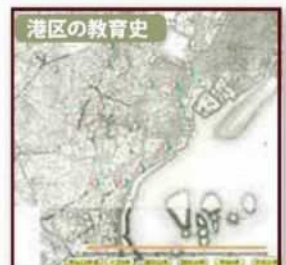
資料編では、刊本の内容に加えて、刊本に掲載できなかった統計資料や行政文書なども公開しています。



見る
知る
伝える



「見る・知る・伝える～港区教育アーカイブ～」では、編さん過程で発見された貴重な歴史資料や映像、幼稚園・学校の変遷図などを公開しています。3つの入り口(子どもたちの学びの歴史/区民とあゆむ学びの歴史/港区の教育史)からご覧いただけます。



港区教育史



<https://adeac.jp/minato-city-kyouiku/top/>



全
巻
刊
行

港区教育史

港区の地における150年を超える教育のあゆみを体系的に記録し、分かりやすく親しみやすく、後世に語り継いでいける港区教育史を編さんしています。

第1巻～第9巻



第1巻～第7巻

昭和62年に刊行した『港区教育史』(上・下巻)に、注釈とコラムを追加しています。

- 第1巻 港区の風土と教育のあゆみ
- 第2巻・第3巻 明治期の教育
- 第4巻 大正期の教育
- 第5巻～第7巻 昭和期の教育

第8巻・第9巻 平成期の教育

- 第8巻 概説/幼児教育の再編/小学校教育の再編/中学校教育の再編/特別支援教育の展開
- 第9巻 諸学校の状況/教職員の状況/教育行政の改革/生涯学習の推進

第10巻 資料編



昭和62年に刊行された『港区教育史』(下巻)と平成9年に刊行された『港区教育史』(資料編2)の内容を受け継ぎ、平成8年以降の事項を追加しています。

- ▶ 明治元年から令和2年度までの教育史年表
- ▶ 地域特性と変遷がわかる図表および統計資料
- ▶ 学校教育関連施設
区立幼稚園・小学校・中学校の沿革と現況 ほか

販売場所

港区役所3階区政資料室
麻布地区総合支所
赤坂地区総合支所
高輪地区総合支所
芝浦港南地区総合支所
港区立郷土歴史館

価格 各巻3,500円

第11巻 暮らしと教育編



区民の暮らしと教育との関係や、地域と学校との関わり、子どもの様子といったかけがえのない歴史を、7人の執筆者が学校に保管されていた史資料を丹念に調査し、14のテーマからひも解いています。

- ▶ 地域社会の変容と学校
- ▶ 近代教育のはじまり
- ▶ 子どもの就学の状況と行政・家庭
- ▶ 小学校における子どもの服装
- ▶ 生活・教育環境と学校建築
- ▶ 学校給食のはじまり
- ▶ 大正新教育と小学校
- ▶ 麻布区内幼稚園の戦中戦後
- ▶ PTAの活動と保護者の意識
- ▶ 危機から逃れていく子ども、逃れてくる子ども
- ▶ 戦後新学制と学校
- ▶ 新制中学校の校誌に現れた「座談会」
- ▶ 1964年東京オリンピックと学校教育
- ▶ 国際交流・国際理解教育

お問い合わせ 〒105-8511 港区芝公園一丁目5番25号
港区教育委員会事務局 教育推進部 教育長室 教育史編さん担当 03-3578-2829

『港区教育史』完結記念イベントの実施について

令和5年3月1日(水)の『港区教育史』くらしと教育編(全1巻)刊行により、平成28年度から編さんを進めてきた『港区教育史』(全11巻)が完結します。

この『港区教育史』完結を記念して、下記の2つのイベントを開催します。

記

1 港区デジタルアーカイブ教育活用コンテスト

目的:「デジタル港区教育史」の周知を図るとともに、その活用を推進する。

部門:教材部門、授業プラン・実践報告部門

応募資格:公立の小・中学校、高等学校の教員、教職課程を履修する学生、学校司書、
司書教諭、司書、学芸員(港区在住・在勤・在学の限定なし)

応募期間:令和4年12月1日(木)～令和5年1月24日(火)

賞:【港区教育長賞】各部門1点 【優秀賞】各部門2点

入賞作品:入賞した教材、学習指導案及び授業実践事例は、区ホームページ及びADEAC(アダック)*で公開し、授業づくりの参考に供する。

*港区デジタルアーカイブを公開しているシステム

審査会:令和5年2月24日(金)

審査委員長:浦田幹男(港区教育長)

審査員:辻直人(和光大学現代人間学部心理教育学科教授、『港区教育史』くらしと教育編 執筆者)

大井将生(東京大学大学院情報学環特任研究員、TRC-ADEAC 特任研究員)

篠崎玲子(港区教育委員会事務局学校教育部教育人事企画課教育指導担当課長)

下橋良平(港区教育委員会事務局学校教育部教育人事企画課統括指導主事)

後援:デジタルアーカイブ学会

2 『港区教育史』完結記念講演会

目的:『港区教育史』(全11巻)刊行の周知を図るとともに、「デジタル港区教育史」の周知を図る。

日時:令和5年3月19日(日)13:30～15:00

場所:港区立伝統文化交流館、ZOOMによるオンライン

対象:どなたでも

定員:会場参加 50名(港区在住・在勤・在学優先で抽選)

オンライン参加 人数制限なし(事前申し込み要)

講演:これからの港区の教育～『港区教育史』の編さんを通じて～

講師:小国 喜弘(こくに よしひろ)先生

(東京大学大学院教育学研究科教授 港区教育史編さん委員会 委員長)

※港区デジタルアーカイブ教育活用コンテスト表彰式同時開催

『港区教育史』完結記念イベント

港区デジタルアーカイブ教育活用コンテスト 実施要項

1 趣 旨

港区では、多くの方に港区の歴史に興味・関心を持っていただくため、デジタルアーカイブ「デジタル港区教育史」「デジタル版 港区のあゆみ」を公開しています。

教科指導におけるICTの活用は、児童・生徒の学習への興味・関心を高めるなどの効果が期待できることから、令和5年3月の『港区教育史』完結を記念するイベントとして、「港区デジタルアーカイブ教育活用コンテスト」を開催します。

港区デジタルアーカイブを活用した教材や授業プラン・授業実践報告書を募集し、優秀作品を表彰することで、港区デジタルアーカイブの教育活用を推進します。

2 主 催

港区教育委員会

3 後 援

デジタルアーカイブ学会

4 部門・募集作品

(1) 教材部門

港区デジタルアーカイブの資料を活用した教材

(2) 授業プラン・実践報告部門

港区デジタルアーカイブの資料を活用した授業の学習指導案又は授業実践報告書
(授業のねらい、主な学習活動・内容、児童・生徒の反応・変化、成果と課題、使用教材など)

※(1)(2)ともに様式は自由。A4サイズのPDFを1~10枚程度。

5 賞・副賞

【港区教育長賞】各部門1点 【優秀賞】各部門2点

入賞者に副賞として、『港区教育史』第11巻くらしと教育編(令和5年3月刊行予定)と区内共通商品券(スマイル商品券)[教育長賞3万円分、優秀賞1万円分]を進呈。

6 応募資格

公私立の小・中学校、高等学校の教員、教職課程を履修する学生、学校司書、司書教諭、司書、学芸員 ※港区在住・在勤・在学以外の方も応募できます

7 応募期間

令和4年12月1日(木)~令和5年1月24日(火)

8 応募方法

応募用紙に必要事項を明記し、応募作品(PDF)と一緒にメールに添付してお送りください。

【メールの件名】「港区デジタルアーカイブ教育活用コンテスト応募」

【応募先メールアドレス】: minato07@city.minato.tokyo.jp

9 著作権等の扱い

- ・応募作品の著作権は応募者に帰属するものとします。なお、審査のために、主催者が必要最小限の範囲で複製する場合があります。
- ・応募作品のうち入賞作品については、CC-BY*として公開することを応募者は了承することとします。
 - *CC-BY：原作者のクレジット（氏名、作品タイトルなど）を表示することを主な条件とし、改変はもちろん、営利目的での二次利用も許可される最も自由度の高いCCライセンス。
- ・作品中の著作物等（例：写真、文章やコメントなど）については、各資料の二次利用条件表示を参照し従ってください。
- ・応募された方の個人情報は、このコンテストの目的以外には使用いたしません。

10 審査

「応募用紙」及び「応募作品」を次の基準に基づいて、総合的に評価する。

【審査基準】

- ① 児童生徒の「問い」を引き出し、主体的な学びを支援する内容となっているか
- ② 地域資料の特性を活かしているか
- ③ デジタル資料の特性を活かしているか
- ④ 学習指導要領に紐づけられているか

11 入賞発表

令和5年3月頃に、区ホームページにて審査結果を発表。

12 表彰式

令和5年3月実施予定の『港区教育史』完結記念講演会において、表彰式を行う予定。

13 審査員

- ◎浦田 幹男（港区教育長）
 - 辻 直人（和光大学現代人間学部心理教育学科教授、『港区教育史』くらしと教育編 執筆者）
 - 大井 将生（東京大学大学院情報学環特任研究員、TRC-ADEAC 特任研究員）
 - 篠崎 玲子（港区教育委員会事務局学校教育部教育人事企画課教育指導担当課長）
 - 下橋 良平（港区教育委員会事務局学校教育部教育人事企画課統括指導主事）
- ※◎は審査委員長

14 その他

入賞した教材、学習指導案及び授業実践事例は、区ホームページ及びADEAC（アデアック）*で公開し、授業づくりの参考に供します。

*港区デジタルアーカイブを公開しているデジタルアーカイブシステム

15 問合せ先

港区教育委員会事務局教育推進部教育長室教育史編さん担当

E-mail：minato07@city.minato.tokyo.jp

これからの港区の教育

『港区教育史』の編さんを通じて



こくによしひろ
小国喜弘先生
東京大学大学院教育学研究科教授
港区教育史編さん委員会 委員長

参加費無料

3/19日

13時30分開演
於・港区立伝統文化交流館

『港区教育史』(全11巻) 完結記念講演会

港区デジタルアーカイブ教育活用コンテスト表彰式同時開催



港区は、19世紀末以来の日本近代教育史において常に先進的な役割を果たしてきました。

『港区教育史』(全11巻)の完結を記念して、港区教育史編さん委員長の小国喜弘先生をお招きし、『港区教育史』の編さん過程や編さんを通して考えたこれからの港区の教育についてお話しいたします。

日時 3月19日(日) 13時30分開演
(13時開場、15時終了予定)

対象 どなたでも

会場 港区立伝統文化交流館
JR「田町」駅東口 徒歩8分
都営地下鉄「三田」駅 徒歩9分

人数 会場参加50名 (港区在住・在勤・在学優先で抽選)
オンライン参加可 ※事前申込要

申込 みなとコール **03-5472-3710**

港区ホームページの申し込みフォームからも申し込めます



募集 **会場参加**
1月20日(金)～3月6日(月) (受付時間:午前9時(初日は午後2時)～午後5時)
抽選結果は、3月9日(木)以降にハガキでお知らせいたします

オンライン参加
1月20日(金)～3月16日(木) 港区ホームページの申し込みフォームへ

〒105-8511
東京都港区芝公園1丁目5番25号
港区教育委員会事務局教育推進部教育長室
教育史編さん担当
TEL:03-3578-2829 FAX:03-3578-2759

協働 港区立伝統文化交流館



全巻刊行

港区教育史

港区の地における150年を超える教育のあゆみを体系的に記録し、分かりやすく親しみやすく、後世に語り継いでいける港区教育史を編さんしています。

第1巻～第9巻



第1巻～第7巻

昭和62年に刊行した『港区教育史』(上・下巻)に、注釈とコラムを追加しています。

第1巻 港区の風土と教育のあゆみ

第2巻・第3巻 明治期の教育

第4巻 大正期の教育

第5巻～第7巻 昭和期の教育

第8巻・第9巻 平成期の教育

第8巻 概説/幼児教育の再編/小学校教育の再編/中学校教育の再編/特別支援教育の展開

第9巻 諸学校の状況/教職員の状況/教育行政の改革/生涯学習の推進

第10巻 資料編



昭和62年に刊行された『港区教育史』(下巻)と平成9年に刊行された『港区教育史』(資料編2)の内容を受け継ぎ、平成8年以降の事項を追加しています。

- ▶ 明治元年から令和2年度までの教育史年表
- ▶ 地域特性と変遷がわかる図表および統計資料
- ▶ 学校教育関連施設
区立幼稚園・小学校・中学校の沿革と現況 ほか

販売場所

港区役所3階区政資料室
麻布地区総合支所
赤坂地区総合支所
高輪地区総合支所
芝浦港南地区総合支所
港区立郷土歴史館

価格 各巻3,500円

第11巻 暮らしと教育編



区民の暮らしと教育との関係や、地域と学校との関わり、子どもの様子といったかけがえのない歴史を、7人の執筆者が学校に保管されていた史資料を丹念に調査し、14のテーマからひも解いています。

- ▶ 地域社会の変容と学校
- ▶ 近代教育のはじまり
- ▶ 子どもの就学の状況と行政・家庭
- ▶ 小学校における子どもの服装
- ▶ 生活・教育環境と学校建築
- ▶ 学校給食のはじまり
- ▶ 大正新教育と小学校
- ▶ 麻布区内幼稚園の戦中戦後
- ▶ PTAの活動と保護者の意識
- ▶ 危機から逃れていく子ども、逃れてくる子ども
- ▶ 戦後新学制と学校
- ▶ 新制中学校の校誌に現れた「座談会」
- ▶ 1964年東京オリンピックと学校教育
- ▶ 国際交流・国際理解教育

港区教育史



<https://adeac.jp/minato-city-kyouiku/top/>



○港区教育史編さん委員会設置要綱

平成28年12月20日

28港教庶第2990号

(設置)

第1条 港区教育史の編さんを円滑に推進するため、港区教育史編さん委員会（以下「委員会」という。）を設置する。

(所掌事項)

第2条 委員会は、次に掲げる事項を所掌する。

- (1) 港区教育史の編さん方針に関すること。
- (2) 港区教育史の編集計画に関すること
- (3) 港区教育史の構成及び内容に関すること。
- (4) 港区教育史編さんの推進に関すること。
- (5) その他港区教育史編さんに関し、教育長が必要と認める事項。

(組織)

第3条 委員会は、次に掲げる者で教育長が委嘱し、又は任命する委員11人以内をもって組織する。

- (1) 学識経験者 2人以内
- (2) 区関係団体から推薦を受けた者 3人以内
- (3) 区職員 3人以内
- (4) 校園長 3人以内

(任期)

第4条 委員の任期は、委嘱又は任命の日から教育史編さんが終了する日の属する年度の末日までとする。ただし、委員に欠員が生じた場合における補充した者の任期は、前任者の残任期間とする。

(委員長及び副委員長)

第5条 委員会に委員長及び副委員長を置く。

- 2 委員長は、委員のうちから委員の互選により選出し、会務を統括する。
- 3 副委員長は、委員のうちから委員長が指名し、委員長を補佐し、委員長に事故があるときは、その職務を代理する。

(会議)

第6条 委員会は、委員長が招集する。

2 委員長は、必要があると認めるときは、委員以外の者に対して委員会への出席を求め、その意見を聴くことができる。

(庶務)

第7条 委員会の庶務は、教育委員会事務局教育推進部教育長室において処理する。

(委任)

第8条 この要綱に定めるもののほか、委員会の運営に関し必要な事項は、委員長が委員会に諮り定める。

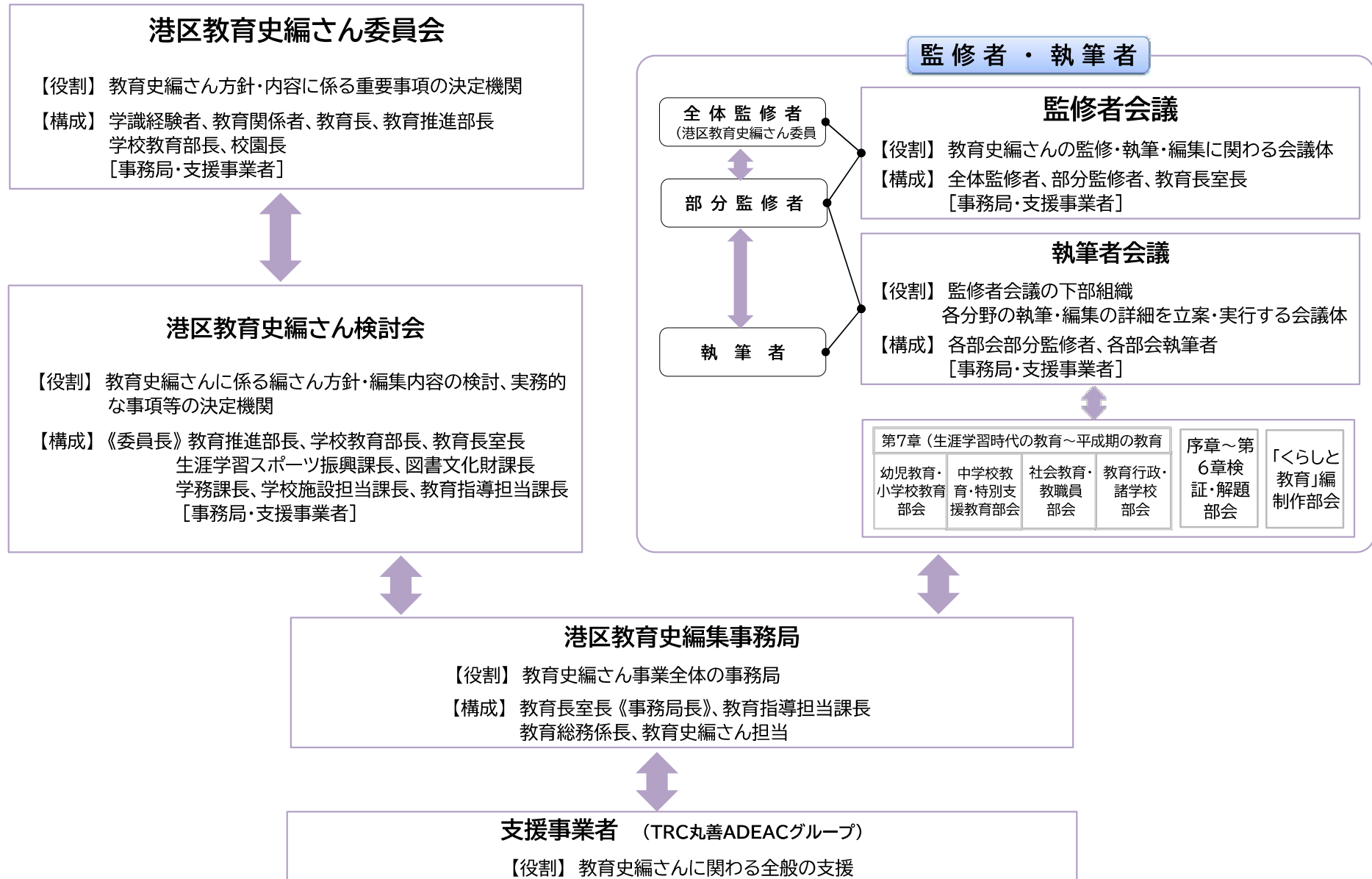
付 則

この要綱は、平成29年1月10日から施行する。

付 則

この要綱は、平成30年4月1日から施行する。

港区教育史編さん体制図（案）



港区教育史編さん基本方針

港区教育委員会は、平成29年3月15日に区政70周年を迎えるのを機に、昭和62年の「港区教育史」(上・下巻)、平成9年の「港区教育史」(資料編1、2)の刊行から経過した港区教育史を、以下の方針に基づき新たに編さんします。

1 基本方針

- (1) 江戸時代後期から始まる「寺子屋」以降、この港区の地における150年を超える教育の歩みを体系的に記録し、後世に語り継いでいける教育史とします。
- (2) 歴史的事実、学術的研究を基に、教育史の編さんを行います。
- (3) 図表や写真等を多く用い、分かりやすく親しみやすい、区民が身近に感じられる教育史とします。
- (4) 区民との協働で編さんを行うことにより、愛着が持てる教育史とします。
- (5) ICT(情報通信技術)を活用することにより、国内外に広く港区の魅力を発信します。
- (6) 収集した資料及び今後新たな研究・検証に基づく資料は継続的に収集を行い、管理・保管して後世に残すとともに、定期的に検証します。
- (7) 子どもや保護者、地域の方々の視点で「くらしと教育編(仮称)」を新たに編さんし、広く区民に手に取ってもらうためのわかりやすい教育史とします。

2 編さん期間

平成28年度から平成34年度まで

3 公開・刊行年月

平成32年3月予定 資料でみる普及版

平成33年3月予定 港区教育史 通史編・資料編

平成35年3月予定 港区教育史 くらしと教育編

4 成果物

- (1) 港区教育史(WE B版・書籍版)
 - ①通史編
 - ②資料編
 - ③くらしと教育編
- (2) 資料でみる普及版(WE B版)

港区教育史の構成について

スケジュールの見直しを受け、成果物は下記のとおりとなりました。

1 港区教育史：『(仮称)新・港区教育史』(WEB版・書籍版<A5>)

(1) 通史編

刊行年月：平成32年度まで(平成33年3月)

- ・旧教育史の第1章～第6章を最大限生かし、新規執筆ではなく検証の上、解題を付す。第7章は、昭和60年頃から平成期にわたる生涯学習時代の港区の教育の歴史を新たに執筆する。

(2) 資料編

刊行年月：平成32年度まで(平成33年3月)

- ・港区の教育に関する統計資料や各種データ等を取りまとめ、掲載する。

(3) くらしと教育編

刊行年月：平成34年度まで(平成35年3月)

- ・調査を通じて新たに確認された史実に基づき、広く区民に手に取ってもらえる港区の教育史を主題別に新規執筆する。
- ・子どもや保護者、地域の方々の視点から再確認できるような内容とする。

2 資料でみる普及版：『(仮称)資料でみる港区の教育』(WEB版)

公開年月：平成31年度まで(平成32年3月)

- ・港区の教育の歴史を写真・図表などの資料を中心に視覚的に紹介する。
- ・区民が身近に感じられる、分かりやすく親しみやすい内容とする。
- ・ICT等を用いた授業の教材としても活用できる内容とする。
- ・港区の教育に関する歴史資料をデジタル化してWEBに搭載し、区民が資料を通じて港区の教育の歩みについて学び、調べることができる環境を構築する。
- ・WEB版の特性を活かし、継続的に更新可能なしくみとする。

※下線部が変更箇所です。

